

令和5年12月号(307号)
(皇紀2683年) 毎月1日発行

新風

編集人 川畑賢一

発行人 魚谷哲央
年間購読料 2,000円

維新政党・新風本部
〒604-0934 京都市中京区麩屋町通二条下ル
第2ふじビル4階
TEL.075-708-3700 FAX.075-708-3800
<https://shimpu.jpn.org/>
otayori@shimpu.jpn.org

令和五年を振り返って

激動混乱が予想された令和の時代は、先づ武漢コロナウイルスによつて国際社会が麻痺させられることに始まり、続いてロシアのウクライナ侵略によつて、大別して国際社会は露中側とG7側との厳しい分断状況に直面してゐる。それに先行して米国の次ぐ大国化した中共の世界支配戦略による米中対決が次第に顕著となつてはゐるが、台湾有事を含めた東アジア情勢の緊迫化がロシア・ウクライナ戦争の泥沼化に並んで混迷に輪を加へてゐる。

そして、突如、中東におけるパレスチナ(といふよりはハマス)とイスラエルとの戦端が勃発して国際社会は将又、イスラエル支持とパレスチナ支持とに色分けされてゐるが、多大な民間人の犠牲が生じてゐる現状に対しては停戦を求め国際的世論が大勢を占めてゐることが一縷の救ひではある。イスラエル建国以降の歴史を経緯からさう簡単に決着は見込めない。斯様に混沌とした国際社会の現状に対してわが国は如何なる対応を為し得るのであらうか。

自衛隊の本質的議論を
昨今、世上ではウクライナの反撃攻勢に触発されて安全保障に関する国民意識の高まりがある。マスメディアにおける元自衛隊高級幹部や軍事評論家による戦況解説などの言論活動も頻繁である。かつては災害派遣隊として以外に日陰者であった自衛隊の存在や、国防軍事を語る事が忌避されてゐた一時代昔の社

会風潮を思ふと今昔の感がある。しかし、国会においてより本質的な安全保障の議論が行はれてゐるとは言ひ難い。特にわが国が直面する台湾有事及び北朝鮮の暴発に対する反撃力などについて様々な軍事対応のことが論評され、自衛隊部隊の南西配属等も実施されてはゐるが、隔靴搔痒としか言ひ様がない。即ち、自衛隊は軍事集団ではあるが、軍隊ではないといふ根幹を見て見ぬ振りをしてゐる主権国家日本の根本矛盾である。よくある論に海上保安庁と海上自衛隊との任務連携といふことがあるが、警察予備隊として発足した自衛隊は今日においても法的にはその性格に基本的に変容はない。

戦後政治の体たらく
この根本的矛盾を自衛隊幹部諸氏は内心痛切に考へてゐることであらう。いざ有事に直面して、専守防衛的軍事姿勢は先づ有効的即応体勢ができず、政権においても咄嗟の政治的判断は更に輪を掛けて逡巡し、気が付けば勝敗は決してゐると言はざるを得ない。現行占領憲法の根本的矛盾に眼を瞑つて遣り過ぐす戦後政治の怠慢が許される事態ではないが、既成政治党派にその認識は皆無であり、只々徒に空虚な論議を繰り返すのみである。時代に合はせて憲法も改正しなければといふ論調がよくあるが、現行占領憲法はその成立過程からして道理の通らない

ものであり、状況論で済むことではない。ここに戦後体制(現行占領憲法と従属的日米安保体制)打破を党是とするわが維新政党・新風の使命も存するところである。
岸田政権が発足して二年が経過したが、支持率が三十%を割り込み始めた。今秋打ち出した経済対策(減税が目玉)が不評であり、選挙対策だと国民に見透かされてゐること。しかし、自民党歴代政権のほとんどの施策は選挙対策と言つても過言ではない。常に目の前の景気対策が主柱であり、国民も亦それを期待してゐる。国民生活の真の安定調和を図る中長期的国家・社会ビジョンとそれに基づいた短期政策が求められてゐるのであるが、実態は皮相な時流に阿り、利権に敏く、権力への執着といふ議員の属性が露骨に目的化し

るが、多大な民間人の犠牲が生じてゐる現状に対しては停戦を求め国際的世論が大勢を占めてゐることが一縷の救ひではある。イスラエル建国以降の歴史を経緯からさう簡単に決着は見込めない。斯様に混沌とした国際社会の現状に対してわが国は如何なる対応を為し得るのであらうか。

この根本的矛盾を自衛隊幹部諸氏は内心痛切に考へてゐることであらう。いざ有事に直面して、専守防衛的軍事姿勢は先づ有効的即応体勢ができず、政権においても咄嗟の政治的判断は更に輪を掛けて逡巡し、気が付けば勝敗は決してゐると言はざるを得ない。現行占領憲法の根本的矛盾に眼を瞑つて遣り過ぐす戦後政治の怠慢が許される事態ではないが、既成政治党派にその認識は皆無であり、只々徒に空虚な論議を繰り返すのみである。時代に合はせて憲法も改正しなければといふ論調がよくあるが、現行占領憲法はその成立過程からして道理の通らない

ものであり、状況論で済むことではない。ここに戦後体制(現行占領憲法と従属的日米安保体制)打破を党是とするわが維新政党・新風の使命も存するところである。
岸田政権が発足して二年が経過したが、支持率が三十%を割り込み始めた。今秋打ち出した経済対策(減税が目玉)が不評であり、選挙対策だと国民に見透かされてゐること。しかし、自民党歴代政権のほとんどの施策は選挙対策と言つても過言ではない。常に目の前の景気対策が主柱であり、国民も亦それを期待してゐる。国民生活の真の安定調和を図る中長期的国家・社会ビジョンとそれに基づいた短期政策が求められてゐるのであるが、実態は皮相な時流に阿り、利権に敏く、権力への執着といふ議員の属性が露骨に目的化し

ものであり、状況論で済むことではない。ここに戦後体制(現行占領憲法と従属的日米安保体制)打破を党是とするわが維新政党・新風の使命も存するところである。
岸田政権が発足して二年が経過したが、支持率が三十%を割り込み始めた。今秋打ち出した経済対策(減税が目玉)が不評であり、選挙対策だと国民に見透かされてゐること。しかし、自民党歴代政権のほとんどの施策は選挙対策と言つても過言ではない。常に目の前の景気対策が主柱であり、国民も亦それを期待してゐる。国民生活の真の安定調和を図る中長期的国家・社会ビジョンとそれに基づいた短期政策が求められてゐるのであるが、実態は皮相な時流に阿り、利権に敏く、権力への執着といふ議員の属性が露骨に目的化し

しんぶうしゅう
新風驟雨
去る十一月二十三日、新嘗祭の佳日に独り芝居『三島由紀夫・招魂の賦』(本多菊雄氏主演)が京都大学西部講堂で上演された。京大西部講堂は、昭和四十年代の新左翼学生運動が盛んな頃、彼等の根拠地であり、感慨深いものがある。かつて三島由紀夫氏が東大全共闘との討論のため東大に乗り込んだが(その実写記録フィルムが数年前公開された)、終つた直後に三島氏を先導して東大を後にする森田必勝氏の厳しい表情を思ひ出した。▼昨日の様に思ひ出される昭和四十五年十一月二十五日の桶の会蹴起から五十三年が経過したが、三島由紀夫氏が昭和四十三年に発表した『英霊の声』作中の詩において表現された戦後日本への痛烈な諷刺・批判は、五十年余を経て色褪せるどころか、その情況は一段と悪化、混迷を極めてゐるとしか云ひ様がない。▼地下水脈として未だ枯渇してない筈であるわが国の民族精神の蘇生を信じてこの戦後情況を革正し、三島由紀夫氏の志を真に継承する方途とは何なのか。時代に決然と立ち向かふ覚悟が改めて求められてゐる昨今である。(谷)

本紙目次

- 一頁：令和五年を振り返って
- 二頁：新風ニュース他